

第 29 回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の博学創立100周年を記念した奨励基金により、有為な人材の育成に資することを目的に、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野】

磯 邊 柚 香	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	The Fifth Asia International Symposium on Mechatronics (AISM 2015) において Best Paper Award を受賞した。
岩 永 耀 子	理工学部 4年	ヘアサロンチェーンのID付きPOSデータを用い、データマイニングの観点から顧客評価並びにレコメンデーションに関する分析手法の確立を行い、(株)NTTデータ数理システム主催「2015年度 VMStudio & TMStudio 学生研究奨励賞 最優秀賞」を受賞した。
名 越 大 耕	経済学部 3年	制作したドキュメンタリーが10月21日に行われた「中央大学と戦争」シンポジウムで高い評価を受けた。また、この制作活動は多くのマスメディアに取り上げられ、本学の名声を高め、NPO 市民が作るTVF 主催「東京ビデオフェスティバル2016」において「月間セレクション11月」に選ばれた。

【体育の分野】

ス ケ ー ト 部	学生会体育連盟	第88回 日本学生氷上競技選手権大会（インカレ） 優勝 第63回 関東大学アイスホッケー選手権大会 優勝 平成27年度 関東大学アイスホッケーリーグ戦 優勝
バレーボール部	学生会体育連盟	第68回 全日本バレーボール大学男子選手権大会（インカレ） 優勝 2015年度関東大学男子1部バレーボールリーグ戦において、春季および秋季の2季連続優勝

【その他の分野】

竹 田 響	総合政策学部 4年	社会貢献・平和構築活動が評価され、独立行政法人日本学生支援機構が主催する平成27年度優秀学生顕彰において社会貢献分野で奨励賞を受賞した。
-------	-----------	--

第 23 回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を収めた者に授与するものです。

多 田 由 彦	経済学部 4年	演習論文「納税者の租税回避行動と社会的厚生との関係に関する考察」 人々がコストのかかる租税回避行動をとることができる状況のもとで、政府が税収を最大化することがどのような社会的帰結をもたらすのかを、独自の理論モデルを構築して追究するものであり、税収を最大化しようとする政府が常に、社会的に最適な税率よりも高い税率を選択してしまうことを証明している。本論文で展開される理論モデルはきわめて明快であり数理分析も正確であるとともに興味深い結論が得られている。
田 中 裕 太	商学部 4年	演習論文「自社株取得と経営者予想との関連性に関する実証分析」 利益の経営者予想値と実測値との間の予想誤差が企業の自社株取得を決定づける要因になるかについて検証している。経営者予想は、日本の上場会社のディスクロージャー制度の特徴であり、象徴的な日本の会計情報であり、一方、自社株取得は、ここ数年注目されている機動的な株主還元策である。本論文では、こうした2つの関係を検証し、負の予想誤差は自社株取得に影響を与えないが予想の下方修正と前年利益を下回る予想の公表は不況局面において自社株取得に影響を与えていることを明らかにした。この結果は、経営者が安価で自社株を取得するために戦略的に経営者予想を公表する可能性を示唆する点でたいへん興味深い。近年、財務データの整備にともない日本企業を対象とした研究がみられるようになったが、それでも欧米諸国と比較すると研究蓄積は乏しい。本論文は新たに貴重な研究成果を提示した点で高く評価できる。
横山彰事例研究I 公共選択y班	総合政策学部	研究論文「国政における調整配分型年齢別選挙区制度の設計—政治的意思決定空間における世代間格差是正—」 公共選択学会が主催する「第18回学生の集い」（2015年12月5-6日横浜市立大学）の3年生テーマ「望ましい選挙制度・政治参加のあり方」で最優秀賞（13大学17ゼミ38パート参加中の1位）を受賞した。本論文は、日本における人口減少と少子高齢社会の進展が世代間の政治的格差を構造的に引き起こしていることを独自の指標で明らかにし、この構造的格差問題に対応できる制度を考察し論証し提案したものであり、（1）世代別の投票率と人口を基に独自の実質政治的影響力指数を算出して構造的な政治的格差を明確に示した点、（2）先行研究の年齢別選挙区制度に対し、その政策効果を空間モデルで検証した点、（3）パネルデータ分析でシルバーデモクラシーの存在を明示した点で、高く評価された。

第 21 回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

李 佳 娟	文学研究科 博士課程後期課程 国文学専攻	博士論文『副詞「よく」の多義性』 日本語の副詞「よく」の用法分類を行い、四つの用法があることを新たに発見した。各用法の精密な意味分析の結果、一つの意義素（評価：+）が文法的要素と関連することで意味を形成する結果として多様な意味を形成され、多義的な様相を呈することを解明したものである。 日本語において基礎的であるにもかかわらず、複雑かつ難解な副詞の意味記述に新たな手法を導入し、多義語研究に新知見をもたらしたことは、日本語研究として高く評価され、語彙論と構文論の中間領域を開拓する発展性を有するものである。日本語教育においても「教えにくい日本語」の分析・教授方法に寄与し、日本語のグローバル化を推進する業績である。
-------	----------------------------	---

第 21 回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

町澤 大雅	法学部 3年 (陸上競技部)	第94回 関東学生陸上競技対校選手権大会 第92回 東京箱根間往復大学駅伝大会	10000m 第1区	3位入賞 区間4位 (本学新記録)
-------	-------------------	--	---------------	----------------------

第 19 回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

山田 佳奈	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	研究実績：「イヌ用人工血液の開発」 本成果は、動物医療の現場が抱える深刻な“輸血液確保”の問題を一気に解決する革新的発明であり、動物の輸血療法に大きな貢献をもたらすものと期待される。 当該技術は特許出願を済ませた後、研究論文として第22回日本血液代替物学会年次大会、第5回CSJ化学フェスタ、2015環太平洋国際化学会議において、候補者自身が研究発表を行い、日本血液代替物学会では学生講演賞を受賞した。さらに研究内容は日刊工業新聞、日経産業新聞にも掲載された。2015年度内に一流科学雑誌への論文投稿を予定している。
高橋 直己	理工学研究科 博士課程後期課程 経営システム工学専攻	論文「イメージ写真からの代表色とクラスター特徴量の抽出によるインテリアブランドの分析」 第17回日本感性工学会大会の査読セッションに採択され、高い評価を得た。 候補者は、感性工学研究の産業応用として、意匠デザインなどが消費者に与える主観的イメージの類否の定量的な評価方式を研究開発している。これは、知的財産権の一つである意匠デザインの類否判定や、データベース化による国際的な情報の管理・利用の基礎となる技術である。

第 19 回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境工学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境工学科及び大学院理工学研究科都市環境工学専攻に在籍する学生であって、都市環境工学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

徐 承 煥	理工学研究科 博士課程前期課程 都市環境学専攻	候補者の修士論文は移動床現象の微視的な視点と巨視的な視点をつなぐ極めて高い学術評価を有する理論的枠組みを初めて提示した。修士論文発表会において、特に優れた研究発表を行ったとの評価を得ている。土木学会論文集B1(水工学)に査読付き論文を投稿し採択された。また、日本国内における水工学分野最高峰学会の一つである土木学会第60回水工学講演会において研究成果を講演することとなっている。候補者は、「キャンパス・アジア」中核拠点支援事業(文科省設立の事業)に採択された国際水環境人材育成プログラムによる韓国からの留学生である。
内田 健太	理工学部 4年	卒業研究「上流に与える流量の不確実性が下流に及ぼす影響についての基礎的研究」では、水文学は必ず本質的に不確実性を持つことを指摘し、上流の流量に不確実性がある場合に下流に及ぼす影響を検討し、学部生にして新たな学術的挑戦に挑み、不確実性が移流する過程を解明・提示するに至っている。この研究は、水文学においては先駆的研究であり、今後の全球的な気候変動に伴う不確実性が増大する状況においては、それに対応する河川計画の理論的根拠を確立する可能性を示した。その工学的な価値は非常に高いと言える。さらに、卒業論文発表会において特に優れた発表を行ったとの評価を得ている。

第 19 回 久保田昭夫女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、校友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

ヘンブリル 恵	文学部 1年 (女子陸上競技部)	第21回 アジア陸上競技選手権大会 第99回 日本陸上競技選手権大会 (混成競技) 第84回 日本学生陸上競技対校選手権大会 (インカレ)	七種競技 七種競技 七種競技	4位 優勝 優勝
山本 怜	文学部 2年 (女子卓球部)	第82回 全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部) 第82回 全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部)	女子シングルス 女子ダブルス	3位 3位

第 62 回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【優秀団体賞】

バレーボール部	平成27年度 春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 平成27年度 秋季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 第68回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 (2年連続14回目)	優勝 優勝 優勝
自動車部	平成27年度 全日本学生自動車連盟年間総合杯 女子団体の部	優勝
スケート部	秩父宮杯第63回 関東大学アイスホッケー選手権大会 平成27年度 関東大学アイスホッケーリーグ戦 第88回 日本学生氷上競技選手権大会ホッケー部門 (インカレ)	優勝 優勝 優勝

【努力団体賞】

準硬式野球部	東都大学準硬式野球春季リーグ戦 東都大学準硬式野球秋季リーグ戦	10季連続59回目 2季連続60回目	優勝 優勝
射撃部	第11回 日本学生選抜ライフル射撃選手権大会 平成27年度 関東学生ライフル射撃選手権秋季大会	3年連続 2年連続	女子総合団体優勝 女子総合団体優勝
バドミントン部	平成27年度 関東大学春季リーグ戦 平成27年度 関東大学秋季リーグ戦		団体優勝 団体優勝
軟式野球部	平成27年度 東日本学生軟式野球選抜大会 平成27年度 東都学生軟式野球秋季リーグ戦		優勝 優勝
山岳部	南米最高峰アコンカグア (6962m/アルゼンチン)		登頂成功

【リレー賞】

陸上競技部	第94回 関東学生陸上競技対校選手権大会 川上拓也 (法2)・谷口耕太郎 (商3)・諏訪達郎 (法3)	男子4×100m ・猶木雅文 (法4)	優勝
	第84回 日本学生陸上競技対校選手権大会 (インカレ) 諏訪達郎 (法3)・谷口耕太郎 (商3)・猶木雅文 (法4)	男子4×100m ・女部田祐 (法4)	優勝

【優秀選手賞】

谷口 耕太郎	商学部 3年 (陸上競技部)	2015ワールドリレーズ 第28回 ユニバーシアード競技大会 第15回 IAAF世界陸上競技選手権大会	男子4×100mリレー 男子4×100mリレー 男子200m 男子4×100mリレー	3位 優勝 7位 日本代表
諏訪 達郎	法学部 3年 (陸上競技部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子4×100m リレー 男子100m	優勝 日本代表
森 誉	文学部 3年 (陸上競技部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子やり投げ	日本代表
砂間 敬太	法学部 2年 (水泳部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子200m背泳ぎ 男子200m個人メドレー 男子400m個人メドレー	2位 3位 3位
関田 誠大	法学部 4年 (バレーボール部)	第28回 ユニバーシアード競技大会 平成27年度 春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 第68回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会		6位 最優秀選手賞 最優秀選手賞
石川 祐希	法学部 2年 (バレーボール部)	バレーボールワールドカップ2015		6位
但馬 ミツロ	商学部 3年 (ボクシング部)	第85回 全日本ボクシング選手権大会	ライトヘビー級	優勝
曾我 啓介	商学部 4年 (フェンシング部)	第28回 ユニバーシアード競技大会 第67回 関東学生フェンシング選手権大会	男子サーブル団体 男子サーブル個人 男子サーブル	7位 日本代表 優勝
へんぷヒル 恵	文学部 1年 (女子陸上競技部)	第94回 関東学生陸上競技対校選手権大会 第99回 日本陸上競技選手権大会 (混成競技) 第84回 日本学生陸上競技対校選手権大会 (インカレ)	女子100mハードル 女子7種競技 七種競技 七種競技	優勝 優勝 優勝 優勝
原井 博斗	法学部 2年 (自転車競技部)	第84回 全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	男子エリートスクラッチ	優勝
権田 達也	法学部 4年 (重量挙げ部)	第61回 全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会 第43回 東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会 第61回 全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会	56キロ級 56キロ級 56キロ級	優勝 (2連覇) 優勝 (3連覇) 優勝
笠井 武広	商学部 4年 (重量挙げ部)	第75回 全日本ウエイトリフティング選手権大会 2015年世界ウエイトリフティング選手権大会 第61回 全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会	69キロ級 69キロ級 69キロ級	優勝 日本代表 優勝

西本 拳太	法学部 3年 (バドミントン部)	第28回 ユニバーシアード競技大会 第66回 全日本学生バドミントン選手権大会 (インカレ)	混合団体 男子シングルス 男子シングルス	5位 日本代表 優勝 (3連覇)
山本 怜	文学部 2年 (女子卓球部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	混合ダブルス シングルス	8位 日本代表

【体育賞】

新山 政樹	総合政策学部 4年 (水泳部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子50m平泳ぎ	日本代表
蒔田 亮子	経済学部 4年 (自動車部)	平成27年度 全日本学生自動車連盟年間総合杯 平成27年度 全関東学生ジムカーナ選手権大会 平成27年度 全日本学生ジムカーナ選手権大会 平成27年度 全日本学生自動車運転競技選手権大会	女子個人の部 女子の部 女子の部 女子小型貨物の部	優勝 優勝 優勝 優勝
宮下 敬	総合政策学部 3年 (自動車部)	平成27年度 全日本学生自動車運転競技選手権大会	男子小型貨物の部	優勝
前岡 春花	経済学部 3年 (自動車部)	平成27年度 全日本学生自動車運転競技選手権大会	女子小型乗用の部	優勝
鈴木 健斗	法学部 3年 (スケート部)	第88回 日本学生氷上競技選手権大会 (ホッケー部門) (インカレ)		優勝 最優秀選手賞
佐野 多加文	経済学部 4年 (フェンシング部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子フルーレ団体 男子フルーレ個人	日本代表 日本代表
水口 紘希	法学部 3年 (フェンシング部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子エペ団体 男子エペ個人	日本代表 日本代表

【努力賞】

猶木 雅文	法学部 4年 (陸上競技部)	2015日本学生陸上競技個人選手権大会	男子200m	優勝
田辺 将太良	法学部 3年 (陸上競技部)	2015日本学生陸上競技個人選手権大会	男子400mハードル	優勝
原田 大輝	商学部 3年 (準硬式野球部)	東都大学準硬式野球春季リーグ戦		優勝 最優秀選手賞
中島 彰吾	総合政策学部 4年 (スケート部)	秩父宮杯第63回 関東大学アイスホッケー選手権大会 平成27年度 関東大学アイスホッケーリーグ戦		優勝 最優秀選手賞 優勝 最優秀選手賞
横山 奈緒美	商学部 4年 (馬術部)	平成27年度 関東学生馬術競技大会 第50回 関東学生賞典障害飛越競技大会		優勝
新宅 麻未	商学部 4年 (女子陸上競技部)	第94回 関東学生陸上競技対校選手権大会 2015日本学生陸上競技個人選手権大会	女子400m 女子400m	優勝 優勝
梅ヶ谷 翔	法学部 2年 (剣道部)	第61回 関東学生剣道選手権大会		優勝
新里 葉津紀	商学部 3年 (射撃部)	平成27年度 関東学生ライフル射撃選手権春季大会 平成27年度 東日本学生ライフル射撃選手権大会 第11回 日本学生選抜ライフル射撃選手権大会	10mS40W 50m3×20W 50m3×20W	優勝 優勝 優勝
諏訪 晶子	商学部 4年 (射撃部)	平成27年度 関東学生ライフル射撃選手権春季大会 平成27年度 関東学生ライフル射撃選手権秋季大会	50m3×20W 50mP60W	優勝 優勝
高野 こえだ	商学部 2年 (射撃部)	平成27年度 関東学生ライフル射撃選手権秋季大会	10mS40W	優勝
五十嵐 優	法学部 2年 (バドミントン部)	第58回 東日本学生バドミントン選手権大会	男子ダブルス	優勝
中田 政秀	法学部 1年 (バドミントン部)	第58回 東日本学生バドミントン選手権大会	男子ダブルス	優勝
後藤 穂奈美	文学部 2年 (拳法部)	矢野杯争奪日本拳法第28回東日本学生個人選手権大会	女子の部	優勝
千葉 貴瑛	文学部 3年 (軟式野球部)	平成27年度 東都学生軟式野球秋季リーグ戦		優勝 最高殊勲選手賞
安慶名 庸	法学部 3年 (軟式野球部)	平成27年度 東日本学生軟式野球選抜大会		優勝 最高殊勲選手賞

【優秀監督賞】

松 永 理 生	バレーボール部
服 部 和 彦	自動車部
八 戸 了	スケート部

【永年監督賞】

曾 根 田 昌 弘	レスリング部	門 間 健 一	射撃部
高 橋 賢 作	女子陸上競技部	岩 崎 正 恭	軟式野球部

【学長賞】

谷 口 耕 太 郎	商学部 3年 (陸上競技部)	曾 我 啓 介	商学部 4年 (フェンシング部)
諏 訪 達 郎	法学部 3年 (陸上競技部)	へんぷヒル 恵	文学部 1年 (女子陸上競技部)
森 誉	文学部 3年 (陸上競技部)	原 井 博 斗	法学部 2年 (自転車競技部)
砂 間 敬 太	法学部 2年 (水泳部)	権 田 達 也	法学部 4年 (重量挙げ部)
関 田 誠 大	法学部 4年 (バレーボール部)	笠 井 武 広	商学部 4年 (重量挙げ部)
石 川 祐 希	法学部 2年 (バレーボール部)	西 本 拳 太	法学部 3年 (バドミントン部)
但 馬 ミ ッ ロ	商学部 3年 (ボクシング部)	山 本 怜	文学部 2年 (女子卓球部)
蒔 田 亮 子	経済学部 4年 (自動車部)		

第 33 回 学員会会長賞

本賞は、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野 (団体)】

FLPジャーナリズムプログラム 松野良一ゼミ	FLP (ファカルティ・リンケージ・プログラム)	ゼミ活動で制作したドキュメンタリー『青い目の人形』が「地方の時代」映像祭 (NHK、民放連など主催) で奨励賞、ヒューマンドキュメンタリー《阿倍野》2015で入賞し、高い評価を受けた。同じく『最高齢パイロット』もヒューマンドキュメンタリー《阿倍野》2015で入賞した。また、中央大学130周年「戦後70年企画」として始動した「中央大学と戦争」プロジェクト、ドキュメンタリー『風船爆弾』などの活動が多くのマスメディアに取り上げられ、本学の名声を高めた。
渡辺岳夫ゼミ やほりえんず	商学部	第62回日本学生経済ゼミナール大会 (60年以上続く全国の経済学部・経営学部・商学部の学生を対象とした歴史ある学術大会で、プレゼン部門の本大会参加者は約1400人であり、日本でも最大規模の経済系学術大会) において「正社員登用制度導入企業における非正社員の正社員化を促進するメカニズムの解明」というテーマで、研究報告を行い、準優勝した。受賞したグループは約1年間に及ぶ研究活動の中で、先行研究の丹念なレビューをベースに分析モデルを構築し、それをヒアリング調査や大規模サンプルの統計分析を駆使して実証している。そして、その分析結果に基づき実践への提案を行っている。大学院修士課程の研究水準に到達していると言える程卓越した研究成果を上げている。
精密機械工学 研 究 部	理工学部	「かわさきロボット競技大会2015」において、ロボット“夕暮れの朝焼け号”が「特別戦出場チーム賞」を受賞。強い特色を持つ機体に贈られる同賞の受賞は、本学の名声向上に貢献した。また毎年「Honda エコマイレッジチャレンジ全国大会」にも積極的に参加しており、ものづくりを実践している。以上より他の学部学生の模範たるべき活動を行っている。
専門職大学院 戦略経営研究科 平野百三チーム	大学院戦略経営研究科	「日本企業が抱える問題」に対して課題を抽出し解決に向けた優秀な戦略提言を行い、日本ビジネススクールケース・コンペティション2015で、3位に相当するDIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー賞を獲得した。日本ビジネススクールケース・コンペティション (JBCC) は、慶応ビジネススクールなど主要ビジネススクールが実行委員会を構成し、(株)シーバスリーガル、(株)経営共創基盤、日経ビジネス社など10社が協賛、経済産業省が後援している競技会で、院生候補者チームは、全国23校160チームの中から受賞した。

【学術・文化・社会の分野 (個人)】

劉 穎	大学院法学研究科 博士課程後期課程 民事法専攻	論文「中国倒産法上の双方未履行双務契約法理：日本法との比較を中心に」は、倒産法の領域における主要な論点につき、我が国の見解を詳細に分析・検討しただけではなく、初めて中国の議論状況を紹介・分析した点において優れている。この論文は、公益財団法人民事紛争処理研究基金より、第8回トリブライ・高木賞 (学生部門) を授与され、高い評価を得ている。
阿久澤 未来	経済学部 4年	論文「日本のエネルギー政策と日本経済の将来について」は、ポートフォリオ理論を応用して、また計量経済学的手法を用いて、最適エネルギーミックスの比率を導出し、将来の日本のエネルギー政策のあり方を示したという点において優れている。この論文は、公益財団法人みずほ学術財団が開催した第56回懸賞論文 (経済の部) において、佳作 (入賞) を受賞し、高い評価を得ている。
千葉 竜 哉	経済学部 4年	みずほ学術振興財団の第56回懸賞論文において「日本のエネルギー政策と日本経済の将来について」の論文で佳作を受賞した。

石川 敏也	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 精密機械工学科専攻	講演論文「巻フィルムチューブ式SMAアクチュエータによる拮抗型人工筋肉の開発」は、これまでのSMAアクチュエータの問題点を独自に解決し実用化への道を開いた上記研究について、その独自の構造と有効性と応用技術をわかりやすく説明した点において優れている。この論文は、「公益社団法人 計測自動制御学会」が開催した「第15回 システムインテグレーション部門講演会」において、「SI2014優秀講演賞」を受賞し、高い評価を得ている。
石原 ひかる	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密機械工学科専攻	“空気圧ゴム人工筋肉とMRブレーキを用いた一脚ロボットの飛躍動作における着地手法の研究”において横浜で開催された権威ある国際会議“the 41th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON2015)”にて、“Best Paper in Session”(セッション内6人中1件)を受賞した。これ以外にも、ロボット分野の国際会議“6th International Conference on Advanced Mechatronics(ICMA2015)”や、国内学会“ロボティクス・メカトロニクス講演会2015”においても発表した。また、本研究のロボットは複数のメディアに取り上げられ、TV出演や専門誌“機械設計”(2015, Vol. 59, No. 12)への掲載も果たした。さらに、科学技術を紹介する“イノベーションジャパン”に参加し、研究室の運営にも大きく貢献した。
椿 大 輔	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密機械工学科専攻	博士前期課程の間に学術論文を4篇、国際会議論文2件及び学術講演発表10件と積極的に研究成果を外公表し、今後は、修士論文の成果をまとめ国際学術誌に論文投稿を予定している。さらにこれまでの研究業績と修士論文の研究内容が評価され、2015年度日本冷凍空調学会・会長奨励賞を受賞することとなった。
茂木 勇祐	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密機械工学科専攻	大学院の博士前期課程で取り組んだ“脳活動計測に基づく車室内警報音の音像定位による危険認知支援”に関する研究が、自動車に関連した技術分野の向上発展に特に貢献したと評価され、大学院精密工学専攻53名より1名選出され公益社団法人自動車技術会『2015年度大学院研究奨励賞』を受賞した。この賞は将来の自動車に関連した技術の発展を担う若手研究者を奨励する賞であり、茂木氏は自動車の技術分野の活躍が期待され、本学の名声向上にも大きく貢献した。
相磯 潤也	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	論文「時間領域RCSを用いた複素誘電率推定に関する研究」が電子情報通信学会の2015年総大会において、エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞を受賞した。この研究成果は、学会からも学術的にも優秀な研究と認められ、本学の名声を高めるのに大きく貢献した。
仲村 太智	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	13族元素含有ベンゼンの性質に関する研究発表を通して、(1)新学術領域研究「元素ブロック高分子材料の創出」第3回合同修士論文発表会での発表「Synthesis and Properties of Group 13 Element-Incorporated Benzenes」に対して優秀発表賞、(2)第62回有機金属化学討論会での発表「アルミナベンゼンとガラベンゼンおよびそのZr錯体の合成と性質」に対してポスター賞、(3)第42回有機典型元素化学討論会での発表「アニオン性インダベンゼンの合成と性質」に対して最優秀ポスター賞を受賞した。これらの研究内容はアメリカ化学会の有機金属化学専門誌Organometallicsへ2報の論文(Organometallics 2015, 34, 1806. Organometallics 2015, 34, 813.)として発表も行っている。また、仲村氏の研究は日本国内で化学系ポータルサイトとして名高いchem-stationにて新進気鋭の若手研究者を紹介する「スポットライトリサーチ」にも取り上げられた。本学における博士後期課程学生のお手本ともいえる多くの研究業績と高い意欲および研究の能力を有している。
町田 亮	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	日本分析化学会誌「Analytical Sciences」に投稿した論文「Temporal Changes of Fractionation Index Caused by Changes in Large Size of Ablated Particles in Laser Ablation-Inductively Coupled Mass Spectrometry」がHot Article賞を受賞した。この論文はレーザーアブレーションプラズマ質量分析法で問題となる元素分別効果の原因を解明した。
石井 惇紀	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	世界最大の錯体系学会である錯体化学会が主催する学会においてポスター賞を受賞する飛躍的な成長と成果を上げた。本学にて未来材料として期待されている水素エネルギー技術に資する研究に、研究室の第1期生として立ち上げも苦にせず、昼夜を問わず没頭してきた。
小高 智子	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	2015年7月にポーランドで開催された国際学会21st International Symposium on the Photochemistry and Photophysics of Coordination Compounds(21stISPPCC)で“Synthesis and Luminescent Properties of Iridium Complexes with 3(5)-Substituted Pyrazole Ligands”の題目でポスター発表を行い、学会で高い評価を得て、RSC. J. Mater. Chem. A. 優秀ポスター賞を受賞した。受賞のコメントの中に研究内容とともに外国人との討論が英語でしっかりできていたとあり、グローバル化の中で本学の研究レベルの高さを示した。
小宮山 剛司	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	「パラジウム触媒とシリルアミンによるハロアレーンのアミノ化反応」と題したポスター発表が第5回CSJ化学フェスタ優秀ポスター賞に選ばれた。化学フェスタは日本化学会が主催する世界化学年記念大会であり、優れた研究が発表される学会である。発表件数1085の中から、発表者の貢献度、質疑応答、研究の独自性、今後の発展の可能性等の観点から高く評価され受賞した。
篠原 隆一	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	コアシェル型蛋白質クラスターからなる赤血球代替物(人工酸素運搬体)の合成、構造、機能に関する研究成果が、イギリス化学会の著名な雑誌 Journal of Materials Chemistry B に論文として掲載され、さらにその研究内容のイメージ図が当該号の表紙として採択され、世界中に広く紹介された。さらに、その人工酸素運搬体に関する内容は日本の新聞にも掲載された。数多くの実験を根気強く繰り返し行うことにより、上記成果を生み出した。常に実験結果を客観的な視点でとらえることができ、困難に直面しても状況を正確に判断し、乗り越える忍耐力と研究力を兼ね備えた優秀な学生である。近い将来前途有為な若手研究者として活躍することが期待される。
田上 景太	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	“Synthesis of Pincer Iridium Complexes Bearing a Boron Atom and iPr-Substituted Phosphorus Atoms: Application to Catalytic Transfer Dehydrogenation of Alkanes”と題した論文を米国化学会の有機金属化学専門誌Organometallicsに指導教員と共著(著者2名のみ)の論文発表)で発表した(2015, 34, 4011.)。
野口 真緒	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	第26回基礎有機化学討論会にて「ビスシリルピラジンとハロボランの反応によるホウ素、窒素含有共役系の合成およびその物性」と題した研究発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。この研究はホウ素と窒素を含有する新規なπ共役系分子の特異な光電子物性を報告するものであり、その独自性が高く評価された。

山田 佳奈	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	イヌ用の人工血液（赤血球代替物）として、ヘモグロビンを遺伝子組み換えイヌ血清アルブミンで包み込んだ（ヘモグロビン-遺伝子組換えイヌ血清アルブミン）クラスターを初めて合成し、その分子構造と物性、酸素結合能の詳細を明らかにした。本研究で開発されたイヌ用人工血液は、血液型がなく、いつでもどこでも使用できるため、獣医療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。確かな基礎学力（学年上位5%以内）をもとに、大変熱心に研究に取り組み、外部機関（医学部、企業）との共同研究にも積極的に参画しながら実験を進め、上記成果を生み出した。その内容は特許申請後、人工血液に関する学会で発表され、今回の受賞となった。
田川 遼介	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 経営システム工学専攻	第10回日本感性工学会春季大会にて発表した論文「固視点と画像の有無が注視に与える影響の解析」は、主観的な価値判断の過程を視線計測と脳活動計測により解明を試みた取り組みで、同大会の優秀発表賞に選ばれ高く評価されている。
藤田 佳祐	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 情報セキュリティ科学専攻	国際電波科学連合(URSI)の主催する第一回目の「1st URSI Atlantic Radio Science Conference」において若手の研究者に対する「Young Scientist Award」を受賞し、研究発表を行うことで本学の名声を高めるのに大きく貢献した。
森宮 誠史 宮崎 裕太	理工学部 4年	公益社団法人日本設計工学会主催・一般社団法人電子情報技術産業協会三次元CAD情報標準化専門委員会後援による、「設計コンテスト2015」にて優勝した。このコンテストは電気機械の樹脂製外装部品を金型での形成を前提に3D-CADで設計し、JAITAが策定中の「3DAモデル」規格に沿ってデータを作成するものであり、電気機械の設計分野の活躍が期待され、3DA規格の妥当性の検証・普及に貢献し、本学の名声向上にも大きく貢献した。
村瀬 里紗	大学院文学研究科 博士課程後期課程 社会学専攻	女性、教育、国際関係分野の研究を行う人物・学業共に優れた女性若手名のみにも与えられる「ホームズ奨学生」に最年少で選ばれ、かつ奨学生代表として表彰式にてスピーチを行っている。また3月には修士論文「社会運動における感情の役割：スリーマイル島と福島における脱原発運動の比較研究」が2014年度上智大学グローバル・スタディーズ研究科修士課程最優秀論文として選定され、研究科首席修了・代表として登壇、さらに祝賀会にて研究論文発表を行う荣誉を得ている。また7月、Hongkong International Conference on Social Scienceにて、村瀬氏の英語論文“Emotions at Work in Social Movements: Comparing Three Mile Island and 2011 Fukushima”がBest Paper Award（最優秀論文）に選ばれている。
笠 愛華	総合政策学部 4年	本研究「ジェントリフィケーションか地域活性化か—都市再開発においてコミュニティ活動の資する可能性」は、未だ日本では十分注目されることのないジェントリフィケーションという現象に着目し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催で進む都心部の再開発についてニューヨークの事例を通じて検証した意義の高い研究である。リサーチ・フェスタ2015において最優秀賞及び優秀ポスター賞を受賞した。
北見 耀子	総合政策学部 1年	スイスのジュネーブで開かれた国際赤十字連盟総会サイドイベントにおいて、「わかりやすいプロジェクト国会事故調編」の代表として東京電力福島原発事故に関する英語でのスピーチを行った。この成果は大手メディアにも本学学生として取り上げられ、各国赤十字代表者から高い評価を受けて赤十字国際連盟総会プレスの取材の依頼や帰国後にも発表内容について詳細の問い合わせや感想がユースボランティアから寄せられている。本学学生が社会活動において十分に高い評価を受けたものであると認められる。

【スポーツの分野（団体）】

バレーボール部	平成27年度 春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 平成27年度 秋季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 第68回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会（2年連続14回目）	優勝 優勝 優勝
自動車部	平成27年度 全日本学生自動車連盟年間総合杯	女子団体の部 優勝
スケート部	秩父宮杯第63回 関東大学アイスホッケー選手権大会 平成27年度 関東大学アイスホッケーリーグ戦 第88回 日本学生氷上競技選手権大会ホッケー部門（インカレ）	優勝 優勝 優勝

【スポーツの分野（個人）】

谷口 耕太郎	商学部 3年 (陸上競技部)	2015ワールドリレーズ 第28回 ユニバーシアード競技大会 第15回 IAAF世界陸上競技選手権大会	男子4×100mリレー 男子4×100mリレー 男子200m 男子4×100mリレー	3位 優勝 7位 日本代表
諏訪 達郎	法学部 3年 (陸上競技部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子4×100m リレー 男子100m	優勝 日本代表
森 誉	文学部 3年 (陸上競技部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子やり投げ	日本代表
砂間 敬太	法学部 2年 (水泳部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	男子200m背泳ぎ 男子200m個人メドレー 男子400m個人メドレー	2位 3位 3位
関田 誠大	法学部 4年 (バレーボール部)	第28回 ユニバーシアード競技大会 平成27年度 春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 第68回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会		6位 最優秀選手賞 最優秀選手賞
石川 祐希	法学部 2年 (バレーボール部)	バレーボールワールドカップ2015		6位
但馬 ミツロ	商学部 3年 (ボクシング部)	第85回 全日本ボクシング選手権大会	ライトヘビー級	優勝

蒔田 亮子	経済学部 4年 (自動車部)	平成27年度 全日本学生自動車連盟年間総合杯 平成27年度 全関東学生ジムカーナ選手権大会 平成27年度 全日本学生ジムカーナ選手権大会 平成27年度 全日本学生自動車運転競技選手権大会	女子個人の部 女子の部 女子の部 女子小型貨物の部	優勝 優勝 優勝 優勝
曾我 啓介	商学部 4年 (フェンシング部)	第28回 ユニバーシアード競技大会 第67回 関東学生フェンシング選手権大会	男子サーブル団体 男子サーブル個人 男子サーブル	7位 日本代表 優勝
へんぷヒル 恵	文学部 1年 (女子陸上競技部)	第94回 関東学生陸上競技対校選手権大会 第99回 日本陸上競技選手権大会 (混成競技) 第84回 日本学生陸上競技対校選手権大会 (インカレ)	女子100mハードル 女子7種競技 七種競技 七種競技	優勝 優勝 優勝 優勝
原井 博斗	法学部 2年 (自転車競技部)	第84回 全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	男子エリートスクラッチ	優勝
権田 達也	法学部 4年 (重量挙げ部)	第61回 全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会 第43回 東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会 第61回 全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会	56キロ級 56キロ級 56キロ級	優勝 (2連覇) 優勝 (3連覇) 優勝
笠井 武広	商学部 4年 (重量挙げ部)	第75回 全日本ウエイトリフティング選手権大会 2015年世界ウエイトリフティング選手権大会 第61回 全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会	69キロ級 69キロ級 69キロ級	優勝 日本代表 優勝
西本 拳太	法学部 3年 (バドミントン部)	第28回 ユニバーシアード競技大会 第66回 全日本学生バドミントン選手権大会 (インカレ)	混合団体 男子シングルス 男子シングルス	5位 日本代表 優勝 (3連覇)
山本 怜	文学部 2年 (女子卓球部)	第28回 ユニバーシアード競技大会	混合ダブルス シングルス	8位 日本代表

【スポーツの分野 (OB)】

藤原 正和 本田技研工業 株式会社	陸上競技部OB	第15回 IAAF世界陸上競技選手権大会マラソン		日本代表
塩浦 慎理 イトマン東進	水泳部OB	第16回 世界水泳選手権大会 第91回 日本選手権水泳競技大会	男子4×100mフリーリレー 男子4×100mメドレーリレー 男子 50m自由形 男子 100m自由形 男子 50m自由形	6位 6位 日本代表 日本代表 優勝
真壁 伸弥 サントリー	ラグビー部OB	ラグビーワールドカップ2015イングランド大会		日本代表
北岡 エリ子 日立化成	女子卓球部OB	第28回 ユニバーシアード競技大会	女子団体 シングルス ダブルス	3位 8位 3位

第 17 回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が、毎年卒業する学生のうち、学業成績優秀または文化活動に顕著な功績を挙げた卒業生に対して授与するものです。

安部 雅俊	法学部 4年	在学4年次に平成27年度司法試験合格
吉永 大介	法学部 4年	在学4年次に平成27年度司法試験合格

第 30 回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。(南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体)

高橋 毬子	法学部 4年	法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀であり、かつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。
遠藤 若奈	経済学部 4年	学業成績優秀であり、学部学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断した。
妹尾 直季	商学部 4年	本年度商学部卒業生の中で学業成績が優秀であり、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。
諸岡 雅樹	理工学部 4年	平成27年度国家公務員採用総合職試験(大卒程度試験)に合格しており、中央大学理工学部・大学院理工学研究科から国家公務員を目指す受験者の中で1番目に良い試験結果を収めた。将来は国土交通省で働くことを強く志望しており非常に有望な学生である。
高橋 琴乃	文学部 4年	卒業論文「物語文学としての『落窪物語』の新機軸」は、高度で質の大変よいものであるとの評価を受けた。卒業後は本学で学んだことを活かし、社会に貢献してくれる有意な人材になると確信する学生である。

中西祥子	総合政策学部 4年	研究論文「フェアトレードにおける生産者の自立性に関する考察ーガーナの生産者組合クアパココを事例にー」更に、卒業論文「フィリピンの住宅政策からみるスクワッターへの影響と可能性に関する考察ーバランガイ・ルスにおけるコミュニティ抵当事業を事例にー」の両論文は自らの経験に基づいた動機を丹念な文献調査によって裏付けるという手法で執筆されており、学術的にも大変評価の高い研究である。学力、人物、行動力と申し分なく、社会人として大いなる活躍が確信できる学生である。
------	-----------	--

第 11 回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

張 曉 棟	大学院総合政策研究科 博士課程前期課程 総合政策専攻	中国の名門大学「上海交通大学」を卒業し、本学大学院でもオールAという成績をおさめた極めて優秀な学生であり、執筆した修士論文は、台湾の若者の政治活動とデジタルメディアの関係性を調査と統計を使って解析したもので、今回の政権交代をも予測する最先端の研究成果をあげた。また、中国からの留学生について、世話係を率先して担当し、ガイダンス、研究設備の説明、不安な学生の相談を引き受けるなど、人格的にも温和な優れた人材である。
-------	----------------------------------	--

第 2 回 法務研究科東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

高 階 祐 一	大学院法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	社会人学生として既修者コースに入学し優秀な成績を修めている学生である。現職の公務員であり、優秀な人材に与えられる制度を利用して法科大学院で学んでいる有為の人材である。経験に基づくリーダーシップを発揮し、クラス内での信頼も厚い。地方公共団体における自治体法務及びそれを支える自治体法曹の必要性を痛感し、法曹を志したものであり、法科大学院修了後は県庁に戻り、政策法務の現場で活躍することが期待される。
---------	-----------------------------	--